

巻頭言

同窓会創立50周年に向かつて  
教育後援会全学年保護者一律加入年度を迎えての活動報告

勝田 啓示  
佐久間 聖

5 4

学部紹介—商経学部—

商経学部における教育について

山本 恭裕

6

〔卒業生寄稿〕

大好きなアイスホッケーとマーケティング  
大学生活があったからこそ

今村 桃介  
佐藤 秀作

12 11

特集 1

千葉商科大学の基盤教育 全学共通科目

【実学への招待】より建学の精神を学ぶ

遠藤隆吉先生が語る「実学」の本質とはなにか

CUCと実学

枘岡 大輔  
内田 茂男

18 14

特集 2

市川からアジアへ、そして世界へ  
—大学の国際化の取り組みの現状と今後の方針—

高橋 百合子

22

特集 3

活躍する卒業生

卒業後に出会った『千葉商大からのギフト』

丸山 恵梨子  
(旧姓 平岡)

29

本部からの報告

「1・1作戦」の促進

北海道支部定期総会母校開催  
副会長追加就任

第50期事業計画(重点目標)案

各委員会からの報告(直近委員会より)

支部長会からの報告

支部からの報告

同期会からの報告

その他瑞穂会・OB会・特定団体からの報告

卒業生のお宿・お店紹介『原田屋グループ』

同窓会創立50周年記念事業「同窓会専用ロゴデザインを募集します!」

千葉商科大学創立90周年記念事業募金について

原田 寛

57

お礼とご報告

露崎 洋

58

随筆	何気ない時間 “Off the Beaten Track”で旅立ち CUC経営者会議ニュース 教育後援会ニュース	宇井 智也 榎戸 敬介	61 60 63 60
教育後援会活動	教育後援会ニュース 教職を志すゼミ生と教育を考える	沖塩 有希子	65
ゼミ紹介	ゼミ紹介 ニュース・イベント 第152回日商簿記検定1級試験に7名が合格！ 「CUC100ワイン・プロジェクト」ガーデンパーティーを開催 学生ベンチャー食堂新規経営者を決定！ B級グルメ専門店「鉄板大学」10月オープン 創立90周年記念事業募金「寄付者銘板除幕式」を執り行う 商経学部教授中村晃先生 国際アマチュアピアノコンクール優勝 キャリア支援センターニュース 「meRAI」が可能にする素顔のマッチング The University DINING ヲポー こゝろ5月号	川 瀬 功 西 尾 淳	77 77 75 75 74 73 73 73 72
CUCレポート	CUCレポート ライブラリーニュース 図書館リニエアルと「ラーニング commons」の設置について ライティングサポートセンターオープンのお知らせ 特集展示「知ってますか？SDGs」 おすすめの1冊 地域連携推進センターニュース 2019年度地域志向活動助成金受給者決定 地域活動推進室（CUCリンクルーム）の利用について キッズ大学2019サマースクールの開催 文化団体・体育会所属各部等の活動状況 1部リーグへ復帰	小林 正之 大平 修司	80 80 82 82 83 83 84 84 84 84 85 84 84 84 87 85
著書紹介	著書紹介 「消費者と社会的課題…ソーシャル・コミュニティーとしての社会的責任」 著者…大平 修司	大平 修司	91

▼同窓会支部事務局一覧 92

▼編集後記 94

# 同窓会創立50周年に向かつて

勝田 啓示

● 千葉商科大学同窓会会長  
(昭34商)



秋の澄み切った空は何とも美しい。学生の皆さんも気分よく勉学に部活に励む絶好の季節であろう。同窓会は来年(2020年)11月に創立50周年を迎える。今期、特別準備委員会を設け記念事業の企画立案中である。温故知新、昭和、平成から学び得たことを令和の時代にどのように活かすかも考え方の一つである。

大学が武士道精神に基づく伝統の実学尊重の教育方針を根底におき、「将来構想 第1次中期経営計画 2014～2018」により教職員の皆様のご努力でどん底を脱出し、著しい躍進を続けていることは我々の記憶にも新しいところである。更に第2次中期経営計画の一環である「信頼される大学へ—SDGsの推進—」に取り組んでいる。SDGs(エスディージーズ)とは世界が直面する課題を解決するために、国連が定めた17の目標のことで、授業ではCUC基盤教育科目「美学への招待」、CUC

C公開講座では「SDGsの推進と大学の役割」があり、実践面では「自然エネルギー100%大学」「CUC100ワイン・プロジェクト」があると、学内広報誌「LINK」Vol.29で橋本副学長先生が解説している。全国の大学にさきがけての取り組みは母校の誇りでもある。このように同窓会も時代に即した活動(未結成支部の設立など)により同窓会自体の基盤の強化を図りながら母校創立100周年に向けて貢献できるような記念事業を実施し、同窓会・大学、更にはCUC経営者会議、教育後援会の皆様と共に祝い喜び合えるような同窓会創立50周年にしたいものである。

# 卒業後に出会った 『千葉商大からのギフト』

## 丸山 恵梨子

(旧姓平岡)

Smoke-Free World 代表

平成12年 商経学部経営学科卒業

私は現在、千葉縣市川市で2007年に自分で立ち上げたSmoke-Free Worldの代表をしております。(※Smoke-Freeとは、『タバコの煙のない・無煙』という意味です。)主な事業は、タバコ問題に関する講演活動で、小中高等学校・大学、企業や自治体、各団体(例…薬剤師会の研修会、歯科衛生士の同窓会、ちば県民保健予防財団等)に出向き、全国各地で講演をしています。私が申し上げる『タバコ問題』とは、単に『禁煙』のことではありません。また、タバコを吸っている人が悪いということでもありません。私は『吸う・吸わないに関わらず、全てはタ

バコという薬物について正しく知ることから始まる』という思いで講演しています。

また、2018年からは、喫煙対策コンサルタント業務も開始し、企業での社員の禁煙支援や職場の環境改善にも携わるようになりました。

### 充実していた学生生活

私は、静岡で生まれ育ち、高校はそれなりの進学校に進みました。しかし、現役時代は思うような結果が出ず、1年の浪人生活を経て千葉商大に入学しました。千葉商



大は、第一志望校ではありませんでしたが、卒業時には「良い大学生活を送ることができた。」と満足している自分がいきました。

大学時代は、学業の傍ら、証券研究部に所属し、大学2年時で部長を経験、大学3年時には、他大学の学生らと共に証券研究全日本及び関東学生連盟の役員を務めました。部活では、主に経済に関する論文を年に数回書き、他大学の学生らと討論合宿(半分は討論会という名の飲み会？人生について語り合う会？大会名：春季セミナー大会、秋季セミナー大会、全日本証券ゼミナル大会)を年3



特待生表彰の様子

回行っていました。他大学の学生との交流は、自身の成長においてもプラスになりました。また、英語の教職課程も履修し、中学・高校教員免許も取得しました。人生初のアルバイトは中学生の家庭教師でした。瑞穂会館(現・The University HUB)地下の学食で、昼休み等を利用し働いたことも

ありました(嬉しい賄い付き)。

また、誇らしかったことは、特待生に二度選ばれたことでした。当時の特待生は、商・経済・経営の各学科3名《成績上位0・5%以内》が選出され、その年の授業料が免除されました。両親は、私が部長や学生連盟の役員になったことに対しての反応は薄かったのですが、特待生になって加藤学長からの証書を持ち帰った時は、驚くほど喜んでくれたことが印象的でした。卒業式では優等賞も頂きました。学業と部活を通じ、良い先生方・友人に恵まれ、充実した4年間でした。

『タバコ問題』に目覚めたきっかけ

—東京穀物商品取引所への就職

就職では、当時の『超々氷河期』という状況をくぐりぬけ、2000年4月、東京穀物商品取引所(現・東京商品取引所。以下『東穀』)に就職しました。振り返ってみると、この就職が、今の私へと舵を切る大きな転機でした。当時の東穀は、自席で自由にタバコが吸える環境で、職場の空気は常にタバコの煙で汚染された劣悪なものでした。空気は吸わずにいれませんが、私は「勤め続けるためには、この職場環境を何とかしなければ」と思い、勇

気をもって会社に働きかけました。喫煙対策の働きかけは、全社員の健康においても、法律遵守の点からも重要でしたが、東穀は全面的な理解をしてくれませんでした。この時私は「会社は社会に貢献する責任もあるかもしれないが、まずは、そこで働く社員を大切する責任を果たすべきだ。」と思いました。その後、ついに私は受動喫煙による健康被害が現れたため、2005年3月東穀を辞職する道を選びました。これは私にとって悔しく辛い経験でした。

※私が、東穀に喫煙対策を働きかけた2003年は、受動喫煙防止が盛り込まれた『健康増進法』が施行された年でした。現在、この法は受動喫煙防止が更に強化され、来年(2020年)4月に、その改正法が完全施行されます。

### Smoke-Free Worldの設立

職場の受動喫煙で苦しめられていた頃、私は、都内でタバコ問題に取り組む市民団体に出会いました。その繋がりから、退職後は2006年に千葉県健康福祉部主催の事業『県内の幼稚園・小・中学校での喫煙防止健康教室』に関わることになり、医師・歯科医師らの講師仲間と共に



兵庫県薬剤師会の研修会での講演の様子

に、幼稚園・小・中学校での講演活動を始めました。この経験から、翌年(2007年)私は現在主宰しているSmoke-Free Worldを立ち上げます。

講演活動・コンサルタント活動は、それにかかる時間や労力に見合った収入の確保が大変難しく、継続していくには正直厳しい現実がありますが、やりがい・人のお役に立てる喜び・幸福感ももてる仕事です。私は、講演とプロ家庭教師としての仕事をしこなしながら、その間に長男・次男にも恵まれました。

### 千葉商科大学同窓会との出会い

気付けば大学を卒業し14年が過ぎた2014年7月、フリーでの仕事と子育てに非常に多忙な日々(現在も)を送っていた時、同窓会組織委員会から『千葉商大同窓会女子会(仮称。現・さくら会)』の創設に関するお手紙が私の元に届きました。その初回の話し合いに、私は、0

歳（生後9ヶ月）の次男を抱えて出席しました。

初めて同窓会組織委員会の役員3名の諸先輩にお会いした時は、頭が下がる思いでした。「このような方々が、ボランティアで同窓会を運営し支えてきてくださったっていうから、同窓会が存在しているんだ。」と感謝の気持ちで一杯になりました。既に市民団体での運営経験があった私は、ボランティアで組織を運営していく大変さ・苦労、それでも関わり続ける方々の熱い思いを知っていたからです。

これがかっけとなり、私は同窓会の定期総会・懇親会への参加するようになりました。特に千葉県支部の諸先輩には可愛がって頂いております。初めての懇親会には子連れ（長男8歳・次男2歳）・夫同伴で参加致しました。大人の集まりである会ですから子供を連れて行き「迷惑がられたらどうしよう……」と不安でしたが、会場では、多くの諸先輩方が家族での参加を歓迎してくださいました。本当に嬉しく、同窓会の温かさを感じました。

卒業後、母校から頂いたギフト

同窓会に関わり始めてすぐに感じたことは、同窓会に所属されている方々の素晴らしさでした。

同窓会には、人の繋がりを大切にし、向学心に溢れ、ご

自身の人生をよりよいものにしようと前向きな姿勢の方が多くいらっしやるのです。また、社会でのご経験も豊富で、諸先輩方と話をさせて頂くだけで自分にとって勉強になりました。私は、同窓会に出会うまでは「大学は通過点の一つで、卒業したら終わるもの」と思っていました。同窓会の存在によって「そうではなかったんだ！」と初めて気付かされました。

そして、卒業年度が違えども、年齢が離れていても、『同じ大学を卒業している』という事実だけで、初対面であっても自然に温かな仲間意識が芽生え、絆が自動的に強まるような『同窓会マジック』が存在することを知りました。同窓会に参加し、こんな『魔法』を得られるなんて、思いもせませんでした（感激！）。

大学時代は終わっているのに、大学を通じての新たなコミュニケーションの中でまた作り上げられていく幸せな人間関係。卒業後も大学からこのようなギフトを頂いたことに本当に感謝しています。

新たな出会いによって更に彩られていく人生

同窓会に仲間入りをさせて頂いて間もなく3年が経とうとしていた2017年4月、私の講演を同窓会にお披

露目する機会が巡って参りました。私は、昭和40年代・50年代同期会連絡協議会の研修会に講師として招かれることになったのです。2年連続(2017年、2018年)で、丸の内サテライトキャンパスにて、『空気と健康』と題して講演させて頂きました。

そして、その講話を聴講くださったある先輩が、「我が社の社員のために講演して欲しい。」とご自身が代表取締役を務められる会社(東京都)に私を招いて下さいました。これは、私にとって本当に嬉しいことであり、かつて職場の受動喫煙に苦しめられていた私は、先輩が社員を思ってお気持ちを目の当たりにして感動しました。

更に、その翌年(2018年)には、その会社の工場(埼玉県)での講演依頼も頂きました。私はこの時、「先輩の会社のお力にもっとなりたい。」と思い、その工場での『禁煙チャレンジャープロジェクト(社員の禁煙支援と職場の環境改善)』を提案致しました。そのプロジェクトはすぐに採用され、半年後の2019年3月、私は『喫煙対策コンサルタント』として先輩の会社でデビューすることになりました。

同窓会の存在が、私に新たな出会いと新たな仕事を与えてくださいました。

私のこれから

私は『自分だからできること』をこれからも磨き続け、多くの方々のお役にたてたらと思っております。その一つが今の私の仕事です。『タバコ問題』は、単なる健康問題ではなく社会問題の一つです。未来を担う子供達のためにも、この問題の解決に向けてできることを継続していきたいと思っております。併せて、その中での一つ一つの出会いを大切に、全てに対しての感謝の気持ちをもって、自分の人生を充実させていきたいと思っております。

そして、同窓会が私に与えてくれたことへの恩返しを、同窓会を通じて、今度は私が後輩達に恩恵を与えられるような形でできたら理想的だと考えています。同窓会と繋がることは、大学のためにも、同窓会を支えてきてくださった歴代の諸先輩方のためにも、そして自分のためにもなる、と確信しております。

末筆ではございますが、この拙稿をお読みくださっている全ての方へ心からの感謝を申し上げ、皆様のお幸せをお祈りしております。